

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、生徒の学力向上を図り将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしま高校生進路実現サポート事業」

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

- 対象校 27校
- 各校の取組内容
 - ・生徒の基礎学力を高める取組
 - (ア) 学ぶ意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス
 - (イ) 指導力向上のための校内研修の活性化
 - ・3年間の計画的な進学指導體制の充実を図る取組
進路指導連絡協議会の開催
 - ・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組
 - (ア) 地域人材を活用した職業研究講話
 - (イ) 地域貢献活動
 - (ウ) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布
 - ・社会人としての在り方についての理解を深める取組
 - (ア) 社会人としての在り方についての講演会
 - (イ) 職場見学会（選択）
 - (ウ) デュアルシステム等の実施（選択）

イ 大学進学プロジェクト

- 対象校 13校
- 各校の取組内容
 - ・論理的思考力・読解力・表現力養成講座
 - ・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
 - ・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施
 - ・社会人としての在り方についての理解を深める講話
 - ・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習
 - ・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）
 - ・卒業生（大学生等）による講話
 - ・保護者を交えた進学勉強会
 - ・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布
- 研究会等の開催
 - ・進学指導力向上のための研究会
 - (ア) 進路指導の組織的対応等に係る研究会
 - (イ) 予備校等を活用した大学入試の方法や問題分析とその指導、模擬試験のデータ等の活用等についての研究会
 - (ウ) 大学入試センター等主催のシンポジウム等への参加
 - ・学力向上のための教科指導力向上研究会
言語活動の充実を意識し、生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究
 - ・進路指導連絡協議会

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

- 対象 県立高等学校1年生
- 実施内容
 - ・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）
 - ・予備校等講師による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）
 - ・生徒によるグループ協議とプレゼンテーション等
 - ・社会人等による講演会等

・大学生との交流会、パネルディスカッション等

- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。
- (3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度									
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
全日制	本校	85	85	84	83	83	83	83	83	84	84
	分校	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

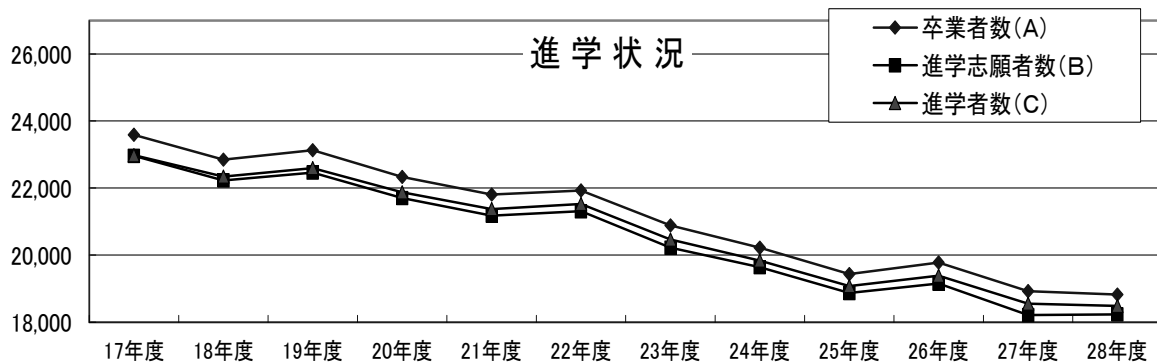
区分	年度											
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
卒業生数(A)	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824
進学志願者数(B)	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232
進学者数(C)	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487
進学志願率(B/A)	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8	97.2	97.1	96.8	96.2	96.9
進学率(C/A)	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2
入学率(C/B)	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2	100.9	101.1	101.2	101.8	101.4

(注) 進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より105名減少し、進学率は前年度と0.2ポイント上昇、入学率は0.4ポイント低下した。平成28年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制 17,414名 (94.2%)
 高等学校定時制 302名 (1.6%)
 高等学校通信制 389名 (2.1%)
 高等専門学校 228名 (1.2%)
 特別支援学校高等部 154名 (0.8%)

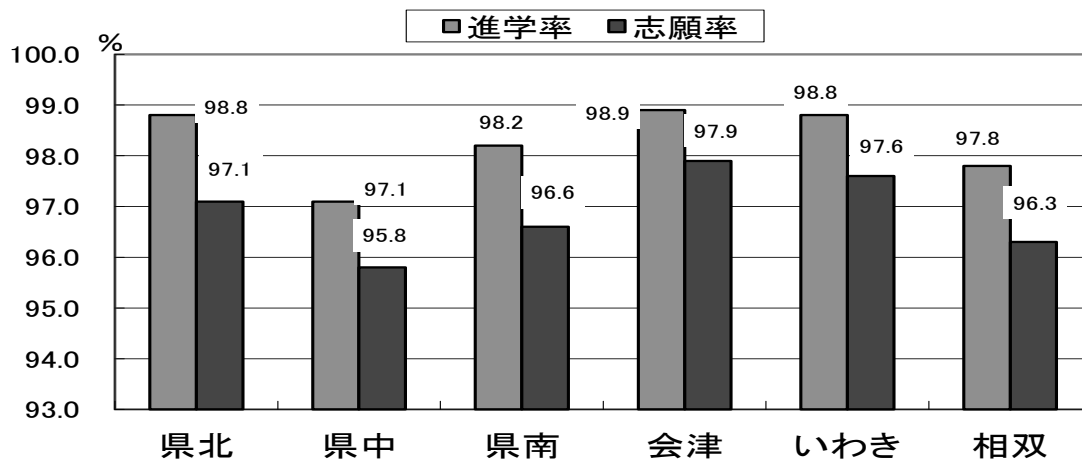
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率(%)

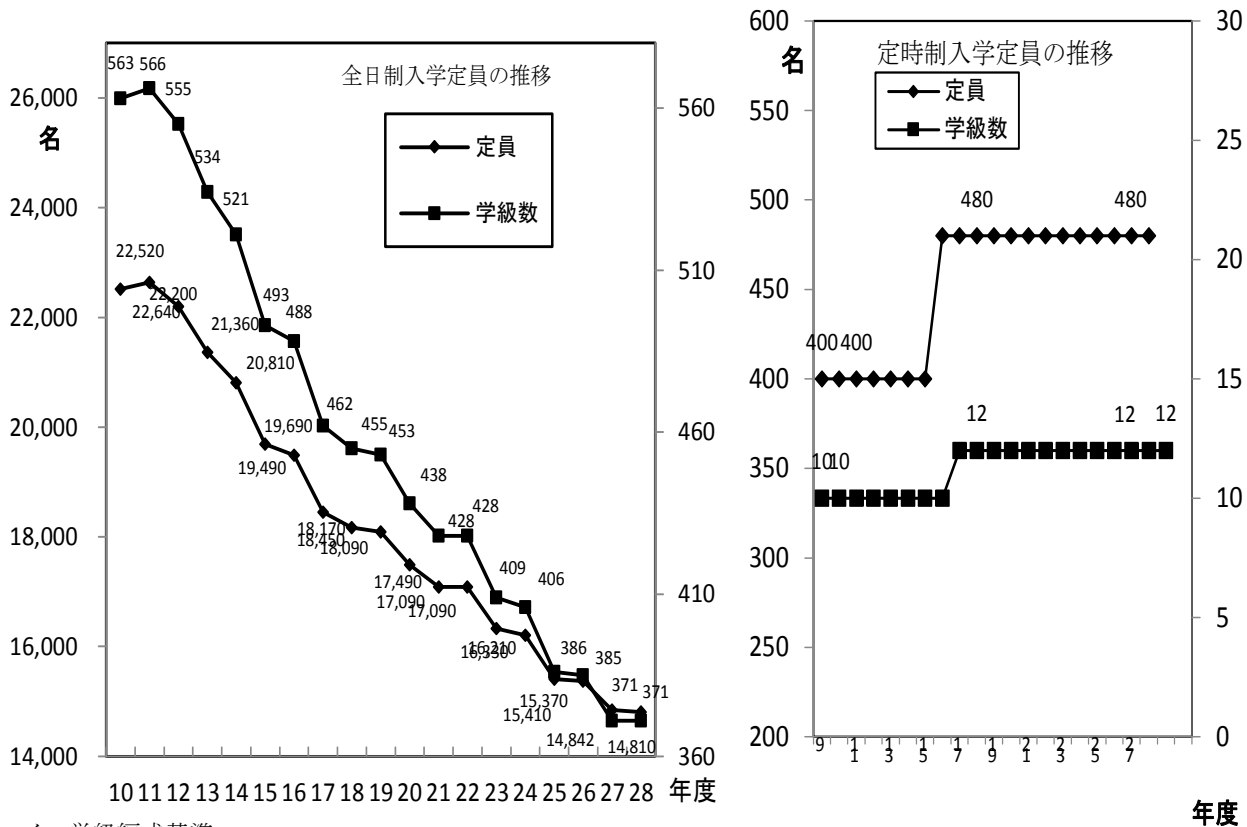
年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
全国	96.8	96.8	96.9	97.0	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7
本県	95.5	95.2	95.6	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D 入学者数	D/C (%)
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2
24	20,220	16,210	80.2	16,961	84.3	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	105	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4

(5) 県立高等学校生徒数 (28.5.1現在)

学科の区分		課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
				学年制	単位制	計			
普通科	男	9,882	133	303	436		10,318	876	
	女	11,114	104	311	415		11,529	830	
	計	20,996	237	614	851		21,847	1,706	
農業に関する学科	男	1,396					1,396		
	女	1,391					1,391		
	計	2,787					2,787		
工業に関する学科	男	5,608	55		55		5,663		
	女	530	10		10		540		
	計	6,138	65		65		6,203		
商業に関する学科	男	1,689					1,689		
	女	2,955					2,955		
	計	4,644					4,644		
家庭に関する学科	男	10					10		
	女	43					43		
	計	53					53		
水産に関する学科	男	312				40	352		
	女	77				0	77		
	計	389				40	429		
理数に関する学科	男	281					281		
	女	175					175		
	計	456					456		
文理に関する学科	男	396					396		
	女	549					549		
	計	945					945		
国際文化に関する学科	男	22					22		
	女	102					102		
	計	124					124		
国際・スポーツに関する学科	男	46					46		
	女	16					16		
	計	62					62		
国際科学に関する学科	男	117					117		
	女	481					481		
	計	598					598		
英語に関する学科	男	46					46		
	女	197					197		
	計	243					243		
体育に関する学科	男	82					82		
	女	28					28		
	計	110					110		
美術に関する学科	男	15					15		
	女	102					102		
	計	117					117		
総合学科	男	1,582					1,582		
	女	2,360					2,360		
	計	3,942					3,942		
合計	男	21,484	188	303	491	40	22,015	876	
	女	20,120	114	311	425	0	20,545	830	
	計	41,604	302	614	916	40	42,560	1,706	

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分 学校		年度											
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
入学者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124	99
	計	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124	99

区分 学校		年度											
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
卒業者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155	158
	計	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155	158

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
		全日制・定時制										通信制									
	職種年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
教員	校長	87	87	86	85	85	85	85	85	86	86										
	教諭等	3790	3730	3674	3617	3523	3446	3351	3312	3223	3218	37	37	37	37	37	37	36	36	36	36
	養護教員	119	116	114	113	110	110	109	106	106	105										
	補充教員	161	167	155	148	148	144	157	153	153	145										
	講師																				
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	3	3	5	6										
	実習助手	351	346	334	330	330	329	326	326	323	322										
	計	4513	4451	4368	4298	4201	4119	4031	3985	3896	3882	37	37	37	37	37	37	36	36	36	36
事務職員	272	266	263	262	257	256	251	249	245	247	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
その他の職員	技能員																				
	学校司書	65	64	61	62	58	57	55	53	53	53										
	用務員	56	56	56	54	53	52	49	48	45	41										
	ボイラ技師	17	16	16	14	11	10	11	10	7	6										
	栄養士	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	4	4	4	4	5	4	4	3	3	3										
	計	147	144	141	138	131	127	123	118	112	107										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合計	4954	4883	4794	4720	4611	4524	4427	4374	4275	4258	43	43	43	43	43	43	42	42	42	42	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成28年度の高等学校教職員定数は、前年度比9人減の4,178人となった。このうち、教諭等は、前年度比5人減の3,254人である。

また、特別支援学校については、前年度比29人増の1,572人となった。このうち教諭等は前年度比28人増の1,342人となった。

ア 新採用(教諭)について

平成28年度は53名(国語5名・地理歴史公民5名・数学3名・理科7名・保健体育9名・音楽1名・美術1名・書道1名・英語4名・家庭1名・情報0名・農業7名・工業6名・商業2名・水産1名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成28年度に実施した平成29年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数40名程度に対して、高等学校志願者は前年度比70名減の710名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は41名(前年度比13名減)となり、辞退者がいないので41名(前年度比12名減)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から4名、教育庁関係から現場復帰による4名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよ

う適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて415名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成28年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

(ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。

(イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(ウ) 優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。

(オ) 2親等以内の者(姻族を含む。)は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

(ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者(以下「初任者」という。)

(イ) 異動2校目において3年以上勤務した者(以下「若年者」という。)

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

(「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。)

(ウ) 同一校に8年以上勤務した者(以下「永年者」という。)

ただし、若年者が中通り地域の4校(湖南・埴工業・修明・修明鮫川)、会津地域の4校(川口・田島・南会津・只見)及び浜通り地域の2校(浪江津島・相馬農業飯館)に勤務した場合は、原則として3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるI・II群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、II群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてI群の学校に勤務するものとする。

ただし、II群普通系からII群専門系への異動、II群専門系勤務者のうち直近の勤務がI群校の者のII群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはII群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準(以下「旧基準」という。)を準用し、下記の(イ) aを満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者 b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校を地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

(a) 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

(b) A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

b 県南地区の4校(湖南・埴工業・修明・修明(鮫川)、会津地区の4校(川口・田島・南会津・只見)及び相双地区の3校(浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館)は、それぞれ1地区とみなす。

c 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

(a) A群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

(b) B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

(c) C群については同一市内間の異動は行わない。

f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として2に準ずるが、採用後20年以内に2地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として3年から8年とする。

b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として2年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群 地域・地区	I		II	
	中	北	福島工業(定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原(定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系
通	北		専門系	福島商業 福島明成 福島工業
り	通	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
	中	田村 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世	専門系	郡山商業 郡山北工業
	南	光南 塙工業 修明 修明(鮫川) 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
		喜多方 喜多方東 喜多方桐桜	普通系	会津 葵

会 津		猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二		会津学鳳
		会津学鳳中学校	専門系	若松商業 会津工業
浜 わ き	い わ き	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
			専門系	平工業 平商業 いわき総合
	相 双	浪江 浪江(津島) 真岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 相馬農業(飯館) <u>小高産業技術</u> <u>小高商業</u> <u>小高工業</u> 新地	普通系	双葉 相馬 原町
			専門系	相馬東

別表② 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橋 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
南	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 須賀川養護(郡山) <u>たむら支援</u> 西郷養護 石川養護 <u>石川養護(分校)</u>
会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見 会津学鳳中学校	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
い わ き	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相 双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 真岡 相馬農業 <u>小高産業技術</u> <u>小高商業</u> <u>小高工業</u>	相馬 相馬東 原町	富岡養護 相馬養護

別表③

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	昭和52	白河実業	B	昭和61	棚倉	A	平成10
福島明成	B	昭和56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	昭和58	相馬農業	B	〃			

(3) 教頭複数制実施校(平成28年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
保原	安積	安積黎明	郡山東
郡山北工	郡山	須賀川	岩瀬農業
光南	白河	白河実業	修明
田村	葵	会津学鳳	会津工業
喜多方桐桜	磐城	磐城桜が丘	平工業
平商業	いわき総合	湯本	勿来工業
ふたば未来学園		郡山萌世	いわき翠の杜
盲	聾	大笹生養護	郡山養護
あぶくま養護	須賀川養護	会津養護	平養護
いわき養護			

3 学校の設置及び統廃合**- 公立高等学校の設置・廃止等(平成29年度) -****(1) 学校の開設・廃止等**

- ①統合に伴う学校廃止 全日制2校
小高商業高等学校、小高工業高等学校
- ②統合に伴う学校新設 全日制1校
小高産業技術高等学校
- ③ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある高等学校の生徒募集休止による休校 全日制5校
双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制5校5学級

課程	学校名	内 容
全日制	福島北	総合学科1学級
	二本松工業	機械システム科1学級
	白河	普通科1学級
	喜多方東	普通科1学級
	いわき総合	総合学科1学級

(4) 募集停止

全日制2校2学級

課程	学校名	内 容
全日制	小野・平田校	普通科1学級
	湯本	英語科1学級

(5) 35人学級編制

全日制3校6学級

課程	学校名	内 容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6) 課程廃止

なし

(7) 学科転換・学科改編

なし

(8) 学科名変更

なし

(9) 校名変更

なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業	塙
	田島 <small>ふたば未来学園</small>	田島、檜沢、荒海 浪江、浪江東、津島、葛尾、双葉 大熊、富岡第一、富岡第二、川内 檜葉、広野 玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部
	相馬東	

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制

変更なし

(13) 専攻科

変更なし

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭40名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生進路実現サポート事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当

者を出席者とする進路指導連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実を図ること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実を図ること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実を図った。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に

処理するよう努めた。

- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

ア 基本方針

平成29年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ア) I期選抜

I期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

- b I期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動

の成果を問う内容を含むことができるものとする。

- c I期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(イ) II期選抜

II期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

また、定時制の課程においては、年齢18歳以上の者については、学力検査を免除することができるものとし、学力検査を免除した場合、小論文（又は作文）を実施することができるものとする。

- b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

- c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

- d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- e II期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

- (a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

- (b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその

結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) III期選抜

III期選抜は、I期選抜、II期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、I期選抜、II期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、I期選抜、II期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b II期選抜における学力検査の成績は、III期選抜の資料とはしないものとする。

c III期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、I期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のI期選抜へ出願することはできない。

e 実施期日については、I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月9日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月14日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月22日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月22日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月6日～10月17日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月21日 平成29年度入学者募集定員決定

(ア) I期選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付

2月2日（2月3日） 面接等

2月7日 合格内定通知

2月9日～2月13日 入学確約書提出

3月14日 合格者発表

(イ) II期選抜関係日程

2月14日～2月17日 出願書類受付

2月20日～2月22日 出願先変更

2月23日～2月24日 調査書提出

3月8日 学力検査

3月8日又は9日 面接等

3月14日 合格者発表

(ウ) III期選抜関係日程

3月15日～3月16日 出願書類受付

3月17日 出願先変更

3月22日 面接等

3月23日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付
I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
2月7日 合格内定通知
2月9日～2月13日 入学確約書提出
3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月14日～3月27日 出願書類受付
4月5日 合格者発表(個人宛通知)

るために福島県立高等学校入学者選抜検討会議が設置された。

10月31日 第1回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
12月5日 第2回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
1月30日 第3回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
2月16日 第4回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
2月24日 高等学校入学者選抜制度の在り方に関する報告書提出

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。平成29年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区教育構想ビクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立浪江中学校
双葉郡浪江町立浪江東中学校
双葉郡浪江町立津島中学校
双葉郡葛尾村立葛尾中学校
双葉郡双葉町立双葉中学校
双葉郡大熊町立大熊中学校
双葉郡富岡町立富岡第一中学校
双葉郡富岡町立富岡第二中学校
双葉郡川内村立川内中学校
双葉郡檜葉町立檜葉中学校
双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内の小学校に在籍していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を平成29年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 福島県立高等学校入学者選抜検討会議の設置

平成28年度福島県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議が平成28年8月22日に教育長に提出した「福島県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書」において、「各高等学校の特色に応じて多角的な評価による選抜を実施し、受験生の基礎学力の向上に資する本県の高等学校入学者選抜制度の特色をさらに意義あるものとするため、受験生の学習意欲を喚起するための方策等、入学者選抜制度の今後の在り方について検討していく必要がある」との報告がなされた。このことを受け、本県の高等学校入学者選抜の在り方等について検討す

オ 志願者数・合格者数

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成28年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,170	2,015	1,196	1,851	3,047	1.51	762	1,303	2,065
農 業	1,040	448	285	391	676	1.51	191	276	467
水 産	160	56	95	16	111	1.98	49	14	63
工 業	2,160	976	1,186	146	1,332	1.36	870	118	988
商 業	1,640	690	327	748	1,075	1.56	193	520	713
家 庭	40	14	4	6	10	0.71	4	5	9
総 合	1,320	425	218	422	640	1.51	144	298	442
計	14,530 (14,810)	4,624 (4,712)	3,311 (3,465)	3,580 (3,662)	6,891 (7,127)	1.49 (1.51)	2,213 (2,383)	2,534 (2,537)	4,747 (4,920)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	140	80	99	179	1.28	40	71	111
工 業	40	12	4	0	4	0.33	4	0	4
計	480 (480)	152 (152)	84 (78)	99 (83)	183 (161)	1.20 (1.06)	44 (53)	71 (62)	115 (115)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	80	40	19	22	41	1.03	18	22	40
工 業	80	24	13	1	14	0.58	13	1	14
総 合	320	128	69	92	161	1.26	53	70	123
計	480 (480)	192 (224)	101 (98)	115 (102)	216 (200)	1.13 (0.89)	84 (78)	93 (89)	177 (167)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,170	6,065	3,107	3,319	6,426	1.06	2,568	2,717	5,285
農 業	1,040	573	348	245	593	1.03	287	208	495
水 産	160	97	81	12	93	0.96	67	12	79
工 業	2,160	1,158	993	90	1,083	0.94	887	76	963
商 業	1,640	927	416	572	988	1.07	336	446	782
家 庭	40	31	3	10	13	0.42	3	10	13
総 合	1,320	668	319	443	762	1.14	255	361	616
計	14,530 (14,810)	9,519 (9,638)	5,267 (5,513)	4,691 (4,673)	9,958 (10,186)	1.05 (1.06)	4,403 (4,628)	3,830 (3,897)	8,233 (8,525)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	329	117	75	192	0.58	84	66	150
工 業	40	36	7	3	10	0.28	4	3	7
計	480 (480)	365 (365)	124 (120)	78 (81)	202 (201)	0.55 (0.55)	88 (90)	69 (68)	157 (158)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	1	0	1	1	0	1
福島南	国際文化	若干名	0	0	0	0	0	0
あさか開成	国際科学	若干名	1	1	2	1	1	2
光南	総合	若干名	1	3	4	0	3	3
会津学鳳	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
湯本	普通	若干名	0	0	0	0	0	0
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	780	127	78	205	90	70	160
農 業	78	15	7	22	10	6	16
水 産	18	0	0	0	0	0	0
工 業	195	33	10	43	22	9	31
商 業	145	9	12	21	5	12	17
家 庭	18	1	1	2	1	1	2
総 合	52	5	7	12	3	7	10
計	1,286 (1,113)	190 (195)	115 (113)	305 (308)	131 (143)	105 (96)	236 (239)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普 通	179	22	13	35	15	11	26
工 業	29	4	0	4	3	0	3
計	208 (207)	26 (40)	13 (24)	39 (64)	18 (25)	11 (18)	29 (43)

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成28年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合 内 定 者 数	連携型選抜 合 内 定 者 数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	8,170	2,065	40	5,285	160	3,438	4,112	7,550
農 業	1,040	467		495	16	488	490	978
水 産	160	63		79	0	116	26	142
工 業	2,160	988	14	963	31	1,792	204	1,996
商 業	1,640	713		782	17	534	978	1,512
家 庭	40	9		13	2	8	16	24
総 合	1,320	442	123	616	10	455	736	1,191
計	14,530 (14,810)	4,747 (4,920)	177 (167)	8,233 (8,525)	236 (239)	6,831 (7,232)	6,562 (6,619)	13,393 (13,851)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合 内 定 者 数	連携型選抜 合 内 定 者 数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普 通	440	111		150	26	139	148	287
工 業	40	4		7	3	11	3	14
計	480 (480)	115 (115)		157 (158)	29 (43)	150 (168)	151 (148)	301 (316)

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名称	期日	期間	会場	参加者
新任校長研修会	5.12 ～5.13	2日	教育センター	新任県立高等学校長 15名
新任教頭研修会	5.19 ～5.20	2日	教育センター	新任県立高等学校教頭 21名
経験者研修Ⅲ (中堅教員研修)	10.26 ～10.28	3日	教育センター	県立学校中堅教員58名
初任者研修 (基本研修)	4.5 ～4.6	2日	教育センター	高等学校初任者研修 対象教員50名
〃 (一次研修)	4.20 ～4.22	3日	教育センター	
〃 (二次研修)	2.15 ～2.17	3日	教育センター	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.7 ～9.9	3日	・地歴公民 (清陵情報) ・数学 (いわき総合) ・理科(白河) ・保健体育 (好間) ・書道 (喜多方東) ・英語(会津 学鳳) ・工業 (二本松工業)	
	(2班) 9.28 ～9.30	3日	・国語(会津) ・音楽 (白河旭) ・美術 (相馬東) ・家庭 (ふたば未来) ・農業水産 (福島明成) ・商業 (若松商業)	
〃 (地区別研修)	4月～ 11月	11日	各地区施設 学校等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	150 時間	各所属校	高等学校初任者研修修了 教員46名
2年次教員 フォローア ップ研修 (教科等指 導研修)	7.22	1日	教育センター	
〃 (企業体験 研修)	長期休 業期 間中	2日	各企業等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	30 時間	各所属校	
名称				
経験者研修 Ⅰ (校外研修)	1班 10.5	3日	教育センター	県立学校教職経験5年 を経過した者90名

	～ 10.7 2班 10.18 ～ 10.20			
〃 (所属校にお ける研修) 経験者研修 Ⅱ (共通研修)	5月～ 12月	5日	各所属校	
〃 (生徒指導 研修)	4.13	1日	教育センター	県立学校教職経験10年 を経過した者51名
〃 (教科指導 研修Ⅰ)	7.5	1日	教育センター	
〃 (教科指導 研修Ⅱ)	7.6	1日		
〃 (社会体験 研修Ⅰ)	2.8 ～2.9	2日		
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～1月	2日	各所、施設等	
〃 (選択研修) 新任教務 主任研修会	4月 ～1月	3日 以上	各所、施設等	
	8.10	1日	川俣高校	新任教務主任27名
	8.18	1日	小野高校	
	8.18	1日	葵高校	
	8.18	1日	湯本高校	

(2) 教員体験研修(2か月)

実施せず

(3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教員研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長研修(10月17日～10月21日)

県立梁川高等学校長 瓜生 康弘

◇副校長・教頭等研修(9月26日～10月7日)

県立湯本高等学校教頭 原田 大輔

◇中堅教員研修(11月21日～12月9日)

県立須賀川高等学校教諭 佐藤 秀明

県立白河実業高等学校教諭 金成 力

(4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省
 エ 会場 独立行政法人教員研修センター
 オ 期間及び参加者
 (9月5日～9月9日)
 県立ふたば未来学園高等学校教頭 和田 直也

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照
 (イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農 業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
	情報技術	郡山北工業、会津工業、平工業
	情報電子	福島工業、清陵情報
工 業	情報システム	二本松工業
	情報処理	郡山商業、清陵情報
商 業	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	福島商業、白河実業、若松商業、小高商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
水 産	情報通信	いわき海星

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成28年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
相 双	8月1日	相 馬 高 等 学 校	38
県 北	8月2日	福 島 明 成 高 等 学 校	108
県 中・県 南	8月3日	清 陵 情 報 高 等 学 校	183
会 津・南 会 津	8月4日	会 津 学 鳳 高 等 学 校	81
い わ き	8月5日	い わ き 光 洋 高 等 学 校	107
合 計			517

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部 会	参加者数	部 会	参加者数
総 則	47	書 道	1
国 語	77	家 庭	3
地理歴史	22	情 報	3
公 民	3	農 業	30
数 学	87	工 業	73
理 科	51	商 業	42
保健体育	61	水 産	9
音 楽	4	福 祉	1
美術・工芸	3	計	517

※外国語部会については、教育課程講習会を実施せず英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修を実施する。

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 32名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内8つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任教員における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成28年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
ス ー パ ー サイエンス ハイスクール (SSH)	福 島	24 ～ 28	「震災・原発被災地として国内外に認知された福島の地域性と5年間のSSH研究開発を融合し、災害復興を可能とする領域横断的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」
	会 津 学 鳳	28 ～ 32	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの開発研究。

磐城	28	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究
----	----	--

(2) ふくしま高校生進路実現サポート事業

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

生徒の進路実現に必要な学力向上や指導力の向上及び地域とのつながりを重視したプログラム等を実施し、社会人としての自覚や基礎学力の育成を図った。さらには、各学校における指導内容や指導法について連携を図り、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

○対象校：県立高等学校27校

福島商業、福島明成、福島西、梁川、安達、須賀川、須賀川桐陽、長沼、岩瀬農業、光南、白河旭、白河実業、塙工業、石川、田村、船引、小野、若松商業、喜多方東、猪苗代、川口、田島、南会津、湯本、いわき海星、相馬農業、新地

イ 大学進学プロジェクト

生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

○対象校：県立高等学校13校

福島、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、原町

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、進路講演会や大学の先輩との交流、参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

○日時：平成29年3月24日～27日（3泊4日）

○場所：国立磐梯青少年交流の家

○対象：難関大学進学への意識、意欲の高い県立高等学校1年生150名程度。

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）

イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ 関係諸機関、諸団体との連携

エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（94校）にスクールカウンセラーを配置した。

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

課程	性別		計
	男	女	
全 日 制	7,089	6,677	13,766
定 時 制	103	109	212
通 信 制	53	69	122
計	7,245	6,855	14,100

イ 卒業式実施期日

種別	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	87	6	0	93
3月2日	1	0	0	1
3月3日	0	1	0	1
3月5日	0	0	1	1
合 計	88	7	1	96

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 富岡高等学校

県議会議長臨席校 3月1日 大沼高等学校

県議会副議長臨席校 3月1日 白河高等学校

県教育長臨席校 3月1日 双葉高等学校

双葉翔陽高等学校

(2) 修学旅行（県立高等学校）（ ）は前年度

ア 参加生徒総数 13,592人(14,012人)

イ 参加率 98.3%(95.2%)

ウ 行 先

行先	北海道	関東	奈良・京都	中国・近畿	九州	沖縄	四国・中国・近畿	四国・近畿	四国	海外
校数	0 (2)	0 (0)	52 (49)	15 (14)	1 (2)	15 (22)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	4 (3)

エ 航空機利用 43校(49校)

北海道方面 0校(2校)

大阪方面 23校 (20校)
九州方面 1校 (2校)
沖縄方面 15校 (22校)
広島 0校 (0校)
愛媛 0校 (0校)
海外 4校 (3校)

2泊3日 2校 (4校)
3泊4日 73校 (75校)
4泊5日 13校 (14校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 169,386円 (167,254円)
最低額 73,603円 (67,739円)
平均額 101,556円 (99,848円)

オ 泊日数

1泊2日 0校 (0校)

キ 引率責任者

校長 41校 (46校)
教頭 47校 (47校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成28年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	大森賢治	教諭	岩瀬農業高等学校	クリエイト浜松	8月1日～8月5日
工業	渡邊豊	教諭	会津工業高等学校	金沢工業大学	8月23日～8月27日
商業	鈴木康弘	教諭	白河実業高等学校	千葉商科大学	8月1日～8月5日
家庭	川名三起子	教諭	安達東高等学校	全国高等学校長協会家庭部 会事務局他	7月26日～7月29日
情報	佐藤信彰	教諭	二本松工業高等学校	千葉商科大学	8月1日～8月5日

イ 平成28年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	菅野順	教諭	安達東高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8月8日～8月10日
家庭	石田美紀	教諭	喜多方東高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	7月21日～7月22日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から教校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島商業高等学校	音楽
福島明成高等学校	理科
福島工業高等学校	工業
二本松工業高等学校	理科
郡山高等学校	学校保健
須賀川高等学校	国語、数学
清陵情報高等学校	工業
長沼高等学校	国語、保健体育
光南高等学校	美術、学校保健
塙工業高等学校	英語
船引高等学校	地理歴史、公民
小野高等学校	商業
会津高等学校	地理歴史
葵高等学校	保健体育
会津学鳳高等学校	書道
若松商業高等学校	国語
喜多方桐桜高等学校	工業、商業
猪苗代高等学校	公民
耶麻農業高等学校	農業
川口高等学校	家庭
坂下高等学校	保健体育
南会津高等学校	数学、英語
磐城高等学校	理科、英語
いわき総合高等学校	国語
いわき光洋高等学校	保健体育
湯本高等学校	情報
いわき海星高等学校	水産
磐城農業高等学校	農業
勿来工業高等学校	工業
相馬高等学校	数学
相馬東高等学校	理科、家庭

9 県立学校学校教育指導委員

教科名	氏名	職名	学校名
国語	青木 仁志	教諭	小名浜高等学校
	岩田 隼	教諭	小野高等学校
	小野寺洋子	教諭	郡山高等学校
地理歴史	岩間真由美	教諭	須賀川桐陽高等学校
	神田みほ子	教諭	猪苗代高等学校
公民	菅野 京子	教諭	福島明成高等学校
	八幡 史恵	教諭	あさか開成高等学校
数学	五十嵐健博	教諭	会津学鳳高等学校
	小池 博枝	教諭	郡山東高等学校
	高谷 喜彦	教諭	相馬東高等学校
理科	生田目淳司	教諭	白河旭高等学校
	西山 博文	教諭	相馬高等学校
	渡邊 大典	教諭	湖南高等学校
保健体育	渡邊 吉城	教諭	保原高等学校
	相原 隆幸	教諭	葵高等学校
	五島 裕美	教諭	田村高等学校
芸術(音楽)	澤田 匡史	教諭	小名浜高等学校
	三國 邦彦	教諭	喜多方高等学校
	近藤 和子	教諭	須賀川桐陽高等学校
芸術(美術)	木口 純孝	教諭	福島西高等学校
	郡司 仁美	教諭	福島北高等学校
	折内 豊	教諭	勿来高等学校
外国語	春日 智志	教諭	田島高等学校
	吉田 寛	教諭	小野高等学校
	戸坂 孝子	教諭	耶麻農業高等学校
家庭	渡邊ひとみ	教諭	相馬農業高等学校
	阿部 泰之	教諭	磐城桜が丘高等学校
情報	鈴木 拓也	教諭	遠野高等学校
	佐藤 博之	教諭	会津農林高等学校
	山田みどり	教諭	相馬農業高等学校
農業水産	清水 弥	教諭	いわき海星高等学校
	小宅 郁雄	教諭	平工業高等学校
	熊谷 雅仁	教諭	白河実業高等学校
工業	清水 隆司	教諭	塙工業高等学校
	高橋 健也	教諭	福島工業高等学校
	五十嵐陽一	教諭	湖南高等学校
商業	高野 賢司	教諭	平商業高等学校
	木村 哲也	教諭	会津第二高等学校
定通	森田千香子	養護教諭	聾学校
	小林 恵子	養護教諭	塙工業高等学校

(40名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成28年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成28年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏名
会長	久保田 範夫 (安積)
副会長	菅野 誠 (福島)
副会長	山内 正之 (会津)
副会長	阿部 正春 (磐城)
副会長	鎌田 由人 (相東)
監査	吉田 啓一郎 (福西)
監査	池田 健一郎 (福南)
事務局長	吉田 豊彦 (福東)

支部

支部	支部長	副支部長
県北	菅野 誠 (福島)	青山 修身 (橘) 喜多見 薫 (福商)
県南	久保田 範夫 (安積)	源後 正能 (黎明) 太田 孝 (白河)
会津	山内 正之 (会津)	高城 友治 (葵) 佐藤 肇 (喜多方)
いわき	阿部 正春 (磐城)	根本 良政 (桜が丘) 松田 泰夫 (平商)
相双	鎌田 由人 (相東)	佐川 尚史 (原町) 小島 稔 (双葉)

理事会

	氏名
理事会	久保田 範夫 (安積) 青山 修身 (橘) 菅野 誠 (福島) 喜多見 薫 (福商) 山内 正之 (会津) 佐久間 秀夫 (福明) 阿部 正春 (磐城) 松本 明倫 (福工) 鎌田 由人 (相東) 白石 文夫 (萌世) 吉田 豊彦 (福東) 阿部 教夫 (盲) 長岐 博 (高体連)

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名
管理運営委員会	◎吉田 強栄 (翠杜) ○二瓶 晃一 (猪苗代) 池田 健一郎 (福南) 阿部 教夫 (盲) 長岐 博 (田村) 渡邊 周二 (石養) 阿部 正春 (磐城) 天野 温子 (猪養) 阿部 秀樹 (四倉) 西村 則昌 (相養) 丹野 純一 (ふ未来)

教育課題委員会	◎田中 誠 (石川) ○山崎 雅弘 (富岡) 吉田 豊彦 (福東) 長島 雄一 (川口) 佐藤 恵一 (清陵) 松尾 親弥 (遠野) 水野 晴夫 (修明) 小島 稔 (双葉) 山内 正之 (会津) 片寄 一 (大笹養) 安田 修久 (耶農) 上妻 弘 (郡養) 中野 隆幸 (西会) 門馬 栄 (平養)
生徒指導委員会	◎高梨 哲夫 (二工) ○渡辺 譲治 (磐農) 高野 成一 (福北) 菅野 利彦 (双翔) 桑名 俊之 (長沼) 江尻 雅彦 (新地) 佐藤 浩正 (埴工) 古河志津子 (あ養) 伊豆 幸男 (船引) 神田 豊 (会養) 澁谷 栄一 (桐桜) 齋藤 秀美 (い養)
教育課程委員会	◎吉田 佳正 (大沼) ○佐藤 京治 (浪江) 佐久間 秀夫 (福明) 猪俣 豊 (只見) 松本 明倫 (福工) 吉村 淳 (勿来) 吉田 浩美 (湖南) 富樫 実 (勿工) 大和田 範雄 (岩農) 鹿目 敦子 (須養) 湯田 重哉 (田島)
高校入試検討委員会	◎菅野 哲哉 (光南) ○瓜生 康弘 (梁川) 安田 徹 (保原) 鈴木 健生 (喜東) 久保田 範夫 (安積) 諏佐 一夫 (坂下) 鈴木 睦治 (あ開) 星 栄一 (小名浜) 瀬谷 真理子 (須高) 比佐 功 (好間) 末永 仁 (須桐) 中野 幹夫 (相農)
大学入試対策委員会	◎吉田 啓一郎 (福西) ○竹田 真二 (郡東) 菅野 誠 (福島) 加藤 知道 (学鳳) 青山 修身 (橘) 佐藤 肇 (喜多方) 源後 正能 (黎明) 根本 良政 (桜が丘) 大和田 修 (郡山) 廣瀬 敬彦 (い光) 太田 孝 (白河) 遠藤 雄二郎 (湯本) 安倍 真一郎 (白旭) 横山 隆 (相馬) 高城 友治 (葵) 佐川 尚史 (原町)
就職指導対策委員会	◎木田 英男 (郡北) ○小林 喜則 (郡商) 喜多見 薫 (福商) 鈴木 康隆 (平工) 佐藤 誠一 (川俣) 松田 泰夫 (平商) 杉内 聡恵 (本宮) 澤尻 京二 (海星) 長田 公雄 (小野) 齋藤 寿 (小商) 深津 文夫 (若商) 鈴木 稔 (小工) 二瓶 賢一 (会工) 白石 文夫 (萌世) 渡邊 芳広 (会農) 芳賀 孝美 (豊)
人権教育委員会	◎小河原 健一 (富養) ○吉津 三千彦 (南会津) 佐藤 信常 (安達) 安瀬 一夫 (い総) 森田 晶代 (安達東) 鎌田 由人 (相東) 馬場 裕史 (白実) 眞部 知子 (西養)

部会長

部 会	氏 名
普通部会	青山 修身 (橘)
商業部会	喜多見 薫 (福島商業)
農業部会	佐久間秀夫 (福島明成)
工業部会	松本 明倫 (福島工業)
水産部会	澤尻 京二 (いわき海星)
家庭部会	森田 晶代 (安達東)
定通部会	白石 文夫 (郡山萌世)
特別支援部会	阿部 教夫 (盲)
理数部会	末永 仁 (須賀川桐陽)
英語国際部会	池田健一郎 (福島南)
体育部会	長岐 博 (田村)
総合学科部会	高野 成一 (福島北)

全国校長会

部 会	氏 名
理 事	菅野 誠 (福島)
理 事	久保田範夫 (安積)
理 事	阿部 正春 (磐城)
管理運営	吉田 強栄 (いわき翠の杜)
教育課題	田中 誠 (石川)
生徒指導	高梨 哲夫 (二本松工業)
教育課程	吉田 佳正 (大沼)
大学入試	吉田啓一郎 (福島西)
就職対策	木田 英男 (郡山北工業)
人権教育	小河原健一 (富岡養護)

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

平成28年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	松本 明倫	福島県立福島工業高等学校長
副会長	竹田 真二	郡山東高等学校長
副会長	高城 友治	葵高等学校長
監査	高野 成一	福島北高等学校長
監査	吉田 豊彦	福島東高等学校長
委員	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長
委員	比佐 功	好間高等学校長
委員	佐久間秀夫	福島明成高等学校長
委員	喜多見 薫	福島商業高等学校長
委員	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長
委員	渡辺 譲治	磐城農業高等学校長
委員	菅野 哲哉	光南高等学校長
幹事	芳賀 菊博	福島工業高等学校教頭
幹事	加勢 宏	福島工業高等学校教頭

(イ) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長	152
保健体育	比佐 功	好間高等学校長	451
理 科	高城 友治	葵高等学校長	534
音 楽	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長	87
農 業	佐久間秀夫	福島明成高等学校長	230
工 業	松本 明倫	福島工業高等学校長	424
商 業	喜多見 薫	福島商業高等学校長	350
定 通	松本 明倫	福島工業高等学校長	156
英 語	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長	468
数 学	竹田 真二	郡山東高等学校長	514
家 庭	渡辺 譲治	磐城農業高等学校長	139
美術工芸	菅野 哲哉	光南高等学校長	69

○平成28年度予算 120,002円

第4節 文化活動の振興

1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

平成28年12月18日(日)、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて第35回福島県高等学校総合文化祭～ふくしまをつなぐ2016～活動優秀校公演が行われ、事務局校である四倉高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

(1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：8,732千円、補助金額計：1,000千円)

18年度福島県高等学校文化連盟

氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
源 後 正 能	校長	安積黎明高等学校	監事	小 林 喜 則	校長	郡山商業高等学校
森 涼	校長	学法石川高等学校	幹事	飯 豊 利 子	教諭	郡山高等学校
佐 藤 信 常	校長	安達高等学校	幹事	土 屋 裕 子	教諭	四倉高等学校
竹 田 真 二	校長	白河実業高等学校	幹事	菊 地 良 尚	教諭	郡山東高等学校
吉 田 佳 正	校長	大沼高等学校	幹事	辻 本 理 恵	教諭	安達高等学校
阿 部 秀 樹	校長	四倉高等学校	幹事	吉 田 義 仁	教諭	郡山北工業高等学校
中 野 幹 夫	校長	相馬農業高等学校	幹事	岩 田 隼	教諭	小野高等学校
三 條 敦	教諭	安積黎明高等学校	幹事	津 瀧 亜 希 子	講師	安積黎明高等学校
根 本 靖 彦	教諭	安積黎明高等学校	顧問	阿 部 武 彦	課長	高校教育課
加 藤 尚 実	教諭	安積黎明高等学校				

会長・専門部委員長

部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
劇	吉 田 佳 正	校長	大 沼	佐 藤 雅 通	教諭	大 沼
音	連 佐 藤 恵 一	校長	清 陵 情 報	菅 原 民 栄	教諭	岩 瀬 農 業
唱	久 保 田 範 夫	校長	安 積	鈴 木 敦	教諭	安 積
楽	丹 野 純 一	校長	ふ た ば 未 来	今 野 貴 文	教諭	ふ た ば 未 来
弦	楽 小 林 喜 則	校長	郡 山 商	鈴 木 敦	教諭	郡 山 商
音	楽 星 栄 一	校長	小 名 浜	瀨 谷 浩 子	教諭	小 名 浜
詩	舞 永 井 祥 一	校長	昌 平	賀 澤 裕 三	講師	昌 平
芸	能 中 野 幹 夫	校長	相 馬 農	村 田 和 丈	教諭	相 馬 農
ク	B	小 林 喜 則	郡 山 商	横 田 日 夏	教諭	郡 山 商
ト	ン	菅 野 哲 哉	光 南	片 平 仁	教諭	福 島 工 業
工	芸	吉 田 啓 一 郎	福 島 西	鹿 山 俊	教諭	福 島 西
道	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	石 井 克 明	教諭	郡 山 商
真	送 加 藤 知 道	校長	会 津 学 鳳	高 橋 俊 男	教諭	会 津 学 鳳
基	阿 部 正 春	校長	磐 城	鈴 木 仁 孝	教諭	橋
棋	菅 野 誠	校長	福 島	根 本 郁 男	教諭	福 島
論	山 内 正 之	校長	会 津	佐 藤 繁	教諭	会 津
百	人 た	源 後 正 能	安 積 黎 明	橋 本 安 広	教諭	田 村
聞	横 山 隆	校長	相 馬	武 内 義 明	教諭	相 馬
芸	竹 田 真 二	校長	郡 山 東	奥 真 理 子	教諭	会 津 学 鳳
科	学 高 城 友 治	校長	葵	山 口 伝	教諭	会 津 学 鳳
業	中 野 幹 夫	校長	相 馬 農 業	藤 原 忍	教諭	相 馬 農 業
業	木 田 英 男	校長	郡 山 北 工	片 平 崇 之	教諭	郡 山 北 工
業	喜 多 見 薫	校長	福 島 商	三 浦 純	教諭	福 島 商
庭	鈴 木 健 生	校長	喜 多 方 東	石 田 美 紀	教諭	喜 多 方 東
通	吉 田 強 栄	校長	いわき翠の杜	原 寛 子	教諭	いわき翠の杜
援	学 校 齋 藤 秀 美	校長	いわき養護	田 野 入 亜 希 子	教諭	いわき養護
レ	C	菅 野 哲 哉	光 南	揚 妻 敏 子	教諭	光 南

イ 第35回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成28年5月から平成28年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第40回全国高等学校総合文化祭への参加

平成28年7月30日から8月3日まで、広島県で開催された文化祭に参加する160名を派遣した。

[参加部門等及び参加生徒数]

総合開会式1名、器楽・管弦楽12名、日本音楽15名、吟詠剣詩舞12名、郷土芸能27名、美術・工芸5名、書道5名、写真8名、放送22名、囲碁5名、将棋6名、弁論2名、小倉百人一首9名、新聞8名、文芸5名、自然科学14名、ボランティア4名

エ 平成28年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

専門部	大会名	成績	学校名
合唱	第69回全日本合唱コンクール全国大会	金賞(全国2位相当) (香川県知事賞)	会津
		金賞	郡山
		銀賞	安積黎明
	第83回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	銅賞(3位相当)	安積黎明
	第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	第3位	郡山
吹奏楽	第64回全日本吹奏楽コンクール	銀賞	磐城
		銀賞	湯本
	第40回全日本アンサンブルコンテスト全国大会	金賞	平商業
放送	第63回NHK杯全国高等学校放送コンテスト	創作ラジオドキュメント部門 優勝 (全国1位相当)	安積黎明
	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門	ビデオメッセージ部門 優秀賞 (全国1位相当)	安積黎明
新聞	第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール	最優秀賞(読売新聞社賞)	郡山東
	第45回全国高校新聞コンクール	優秀校	安積
工業	第7回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト世界大会	世界第3位、特別賞	郡山北工業
	本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2016	第3位	会津工業
	第36回全国大会2人乗りクラス		
商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会	優勝(全国1位相当)	郡山商業
	団体総合競技		
	全国簿記電卓競技大会電卓部門	準優勝(全国2位相当)	郡山商業
	全国高等学校情報処理選手権大会	準優勝(全国第2位相当)	福島商業
マーチングバンド	全国高等学校ダンスドリル選手権大会2016	プロップ部門 優勝 (全国1位相当)	郡山商業
	全国高等学校ダンスドリル選手権大会	ポン部門 優勝 (全国1位相当)	郡山商業
トワリング	ウィンターカップ		

	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 ウィンターカップ	リリカル部門 第3位	郡山商業
		ジャズ部門 第3位	郡山
新聞	第41回全国高校新聞コンクール	優秀賞	相馬

(イ) 個人

専門部	大会名	成績	学校名	氏名
放送	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門 朗読部門	優秀賞 (全国1位相当)	会津学鳳	富田夏芽
小倉百人一首かるた	第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会 小倉百人一首かるた部門読手の部	全国優秀賞	安積黎明	片桐沙都
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	西牧真凜
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	古川唯夏
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	増子未夕
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	馬場智大
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	田村優樹
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	阿部麻莉奈
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	宇佐神奏子
商業	全国高等学校情報処理選手権	第3等 (全国3位相当)	福島商業	南澤義幸
		第2等 (全国2位相当)	郡山商業	佐藤有美
		第2等 (全国2位相当)	郡山商業	水野雄斗
				優勝 (全国1位相当)
				第2等 (全国2位相当)
電卓の部個人総合競技 準優勝 (全国2位相当)				
全国高等学校珠算・電卓競技大会 電卓の部個人伝票算競技	優勝 (全国1位相当)	郡山商業	弟子丸遥花	

	全国高等学校珠算・電卓競技大会 電卓の部伝票算競技	第 2 等 (全国 2 位相当)	郡山商業	濱津花恋
マーチング バンド ・バトン トワリン グ	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 ウィンターカップ 学年別ソロの部	第 1 位	郡山	鈴木梨奈
弁論	第 1 2 回高校生スピーチコンテスト	審査員特別 賞 (全国 3 位相当)	会津	齋藤奏
	第 6 3 回国際理解・協力のための高 校生の主張コンクール	外務大臣賞 (全国 1 位相当)	安積	和田奈那
農業	第 67 回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 農業鑑定競技会 分野 農業	最 優 秀 (全国 1 位相当)	耶麻農業	五十嵐智美
	第 67 回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 意見発表Ⅲ類ヒューマンサービス	最 優 秀 (文部科学大臣賞)	福島明成	佐藤真未子
家庭	第 6 4 回全国高等学校家庭クラブ連盟 研究発表大会ホームプロジェクトの部	福島県教育委員会賞 (全国 3 位相当)	湯本	我妻美紅
工業	第 1 6 回全国高校生ものづくり コンテスト建設系木材加工部門	準 優 勝 (全国 2 位相当)	福島工	佐藤天

オ 平成 28 年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

No.	団体名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	チアリーディング部	郡山商業	マーチ ングバ ンド・ バトン トワリ ング	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2016 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン プロップ部門 優勝 (全国 1 位相当)
				全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンター カップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン ポン部門 優勝 (全国 1 位相当)
				全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンター カップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン リリカル部門 第 3 位
2	放送委員会	安積黎明	放送	第 6 3 回 N H K 杯全国高等学校放送コンテスト 主催：全国放送教育研究連盟 創作ラジオドキュメント部門 優勝 (全国 1 位相 当)
				第 4 0 回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部 門 主催：全国高等学校文化連盟 ビデオメッセージ部門 優秀賞 (全国 1 位相当)

3	コンピュータ部	郡山北工業	工業	第7回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト 主催：MEMS パークコンソーシアム 世界大会3位 特別賞 国内予選(全国1位相当)
4	珠算部	郡山商業	商業	全国簿記電卓競技大会(電卓部門) 主催：全国経理教育協会 団体競技準優勝(全国2位相当)
5	珠算部	郡山商業	商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 団体総合競技優勝(全国1位相当)
6	情報処理部	福島商業	商業	全国高等学校情報処理選手権 主催：学校法人立志舎 団体2位(全国2位相当)
7	コーラス部	安積黎明	合唱	第83回NHK全国学校音楽コンクール全国大会 主催：NHK 銅賞(全国3位相当)
				第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 銀賞
8	合唱部	会津	合唱	第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 金賞(第2位相当)
9	合唱部	郡山	合唱	第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 金賞
				第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会 主催：福島県 第3位(全国3位相当)
10	吹奏楽	平商業	吹奏楽	第40回全日本アンサンブルコンテスト 主催：全日本吹奏楽連盟 金賞(全国1位相当)
11	チアダンス部	郡山	マーチングバンド・トワリング	全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン ジャズ部門(全国3位相当)
12	機械研修部	会津工業	工業	本田宗一郎 Honda エコマイレッジ チャレンジ 2016第36回全国大会 主催：Honda 2人乗りクラス 3位(全国3位相当)

(イ) 優秀個人

No.	氏名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	富田夏芽	会津学鳳	放送	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門 主催：全国高等学校文化連盟 朗読部門 優秀賞(全国1位相当)
2	片桐沙都	安積黎明	小倉百人一首かるた	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会小倉百人一首かるた部門 主催：全国高等学校文化連盟 読手コンクールの部 全国優秀賞(全国2・3位相当)

3	西 牧 真 凜	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
4	古 川 唯 夏	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
5	増 子 未 夕	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
6	馬 場 智 大	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
7	田 村 優 樹	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
8	阿 部 麻 利 奈	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
9	宇 佐 神 奏 子	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
10	菊 地 信 吾	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
11	南 澤 義 幸	福 島 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 情 報 処 理 選 手 権 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 個 人 3 位 (全 国 3 位 相 当)
12	佐 藤 有 美	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当)
13	水 野 雄 斗	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 経 理 教 育 協 会 全 国 簿 記 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当) 応 用 計 算 競 技 優 勝 (全 国 1 位 相 当) 伝 票 算 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当) 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 準 優 勝 (全 国 2 位 相 当)
14	弟 子 丸 遥 花	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 伝 票 算 競 技 優 勝 (全 国 1 位 相 当)
15	濱 津 花 恋	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 伝 票 算 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当)
16	齋 藤 奏	会 津	弁 論	第 1 2 回 高 校 生 ス ピ ー チ コ ン テ ス ト 主 催 : 東 北 文 化 学 園 大 学

				審査員特別賞(全国3位相当)
17	和田奈那	安積	弁論	第63回国際理解・協力のための高校生の主張コンクール 主催：外務省・公益財団法人日本国際連合協会 外務大臣賞(全国1位相当)
18	五十嵐智美	耶麻農業	農業	第67回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 主催：日本学校農業クラブ連盟 農業鑑定競技会 分野 農業 最優秀(全国1位相当)
19	佐藤真未子	福島明成	農業	第67回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 主催：日本学校農業クラブ連盟 意見発表 III類ヒューマンサービス 最優秀(文部科学大臣賞、全国1位相当)
20	鈴木梨奈	郡山	マーチングバンド・バトン・トワリング	全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン 学年別ソロの部 第1位(全国1位相当)
21	我妻美紅	湯本	家庭	第64回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 主催：全日本家庭クラブ連盟 ホームプロジェクトの部 福島県教育委員会賞(全国3位相当)
22	佐藤天	福島工業	工業	第16回全国高校生ものづくりコンテスト 主催：公益財団法人全国工業高等学校長協会 建設系 木材加工部門 準優勝(全国2位相当)

(ウ) 優秀指導者

No.	氏名	所属校名	専門部	指導歴等
1	吉田義仁	郡山北工業	新聞専門部	第38回全国高等学校総合文化祭新聞部門年間紙面審査優良賞(郡山東高校) 第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール最優秀賞(読売新聞社賞)
2	佐藤繁	会津	福島県高文連事務局	第62回全国高等学校決勝弁論大会個人の部準優勝(館林市議会議長賞) 第63回全国高等学校決勝弁論大会準優勝(群馬県議会議長賞) 第69回全国高等学校弁論大会(内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞) 第4回安田峰一郎記念 世界平和弁論大会(特選) 第59回文部科学大臣杯全国青年弁論大会(優秀賞・名古屋市議会議長賞)
3	高橋佳典	福島明成	農業専門部	第9回酪農の夢コンクール全国大会最優秀賞 農業専門部 平成27年度第66回日本学校農業クラブ連盟全国大会群馬大会意見発表会区分 「食料・生産」優秀賞
4	遠藤教広	磐城	文芸専門部	平成24年度第27回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門 優秀賞(一ツ橋文芸教育振興賞) 全国第3位相当 第30回全国高等学校文芸コンクール優秀賞